



愛別町小中一貫教育を 進めてきたこれまでの経緯

愛別町教育ビジョン委員会からの提言

愛別町教育委員会はこれからの愛別町の教育推進の在り方について検討するため、平成29年5月に「愛別町教育ビジョン委員会」を設置し、令和2年1月まで、7回の委員会を開催してきました。この間、小中一貫教育と連携に関する協議を重ね、令和2年3月には、本委員会で検討した内容をまとめた提言書を愛別町教育委員会教育長宛に提出しています。

本提言書は、「校舎の老朽化や児童生徒数の減少が進む中、子どもたちが、より豊かで充実した学校生活を送り、生きる力を育む教育活動を確実に推進することが求められます。今後の子どもたちの健やかな成長を育む教育行政の推進に生かされることを希望し、教育ビジョン委員会としての提言といたします。」とまとめられ、次の3点について、提言がされています。

1. 学校管理規則の改正による「中学校併設型小学校並びに小学校併設型中学校」への移行にあたっては、一体型の校舎で実施することが望まれる。
2. 校舎の構想が明らかになった時点で、小中一貫教育について協議する「愛別町連携教育・小中一貫教育推進委員会」を組織し、小中一貫教育の実施に向けて準備を進めることが望まれる。
3. 小中一貫教育の準備・推進にあたっては、「小中一貫教育の基本的な考え」等を取りまとめたので、これを参考に準備、推進にあたることを望まれる。

愛別町連携教育
推進委員会による
一貫教育の推進

異校種間の連携教育の充実と義務教育9年間の小中連携・一貫教育の推進を目的として、平成31年3月に「愛別町連携教育推進委員会」の設置要綱を一部改正し、幼児センター、小・中学校、北海道美深高等養護学校あいべつ校の協力により、幼・小・中・高の連携、一貫に関わる取り組みが進められてきています。

小中一貫教育の
全面実施に向けた
推進計画の策定

「愛別町連携教育推進委員会」での取り組みにより連携が進み、小・中学校が一貫した教育を一部教科に取り入れるなど、小中の連携、一貫教育の質的な向上が図られたことから、愛別町の小中一貫教育の完全実施というゴールを目指し、令和4年12月に「愛別町小中一貫教育の全面実施に向けた推進計画」を策定しました。

全5章で構成されている本推進計画のポイントについて次ページでお伝えします。

ポイント

01 計画推進のプロセス

- ①9年間で目指す子どもの姿を明らかにする
- ②目指す子どもの育成に必要な(小中一貫)教育を検討する
- ③必要な教育を行うための望ましい環境(施設)を検討する
- ④教育内容や教育施設等を総合的に検討する

ポイント

04 愛別町の特色等を生かした教育内容の柱の構築

- ・愛別と小中一貫の良さと魅力が十分生かされる教育
- ・愛別で育ったことを誇りに思い、変化の激しい社会を生き抜き、社会を支えていく力を育む教育
- ・愛別の現状や将来の可能性を生かす教育(学校規模や9年間変わらない学級構成員、都市とのほどよい距離感、明るく素直な子どもたち、地域の子どもたちとしての育成など)

ポイント

02 目指す子どもの姿の明確化

- 小中一貫教育を有効に生かし、どのような子どもの育成を目指すかを明確にします。
- ・目指す子どもの姿「夢や志を持ち、たくましく次の一步を踏み出し、多様な環境で学び続け、未来社会をよりよく生き抜く子ども」
- ・基本理念「15歳の春への責任ある教育の推進(9年間の一貫教育を通して)」

ポイント

05 小中一貫教育に関わる推進の方向性

- ・義務教育9年間を見通した学校教育目標を設定し、目標の達成を目指します。
- ・9年間の連続した教育課程を編成して系統的な学習指導を進め、確かな学力の定着と体力の向上を目指します。
- ・学校、家庭、地域が協働し、9年間を見通した継続的な生徒指導を行い、豊かな社会性や人間性を育て、心豊かな児童生徒の育成を目指します。
- ・子どもが学び合う場を設定し、教職員が協働して教育活動を設定し、教育効果を高める活動を工夫します。
- ・未来に生きる子どもたちに不可欠であるグローバル感覚とICTに対応する能力を育むため、英語教育とICT教育に取り組みます。
- ・教員が相互に連携、協力して児童生徒への理解を深め、心身の発達に応じたきめ細かな指導に取り組み、子どもたち一人ひとりの個性や能力を伸ばし、生きる力を育みます。
- ・教職員が相互の学校の文化や教育の在り方、系統性を理解し合い、互いの専門性を生かして指導の向上と「15歳の春」に向けた意識の改革を図ります。

ポイント

03 愛別町の教育課題「15歳の春」

愛別町の子どもたちは、幼児センター、小学校、中学校と、ずっと同じ屋根の下で生活し、15歳になると多くの子は、近隣の高校へ進学していきます。その時に、「自信と勇氣」、「生き抜く力」、「夢」を持って飛び出していけるよう、子どもたちに関わる全ての者が、「夢を抱き、たくましく次の一步を踏み出す15歳の春」を描きながら教育にあたります。

令和5年4月から6月にかけては、教育長、教育委員、学校長、町および教育委員会職員により、道内3校の義務教育学校と1校の小中一貫型小学校・中学校、計4校の先進校視察を行いました。それぞれの学校種の組織や運営等の違い、メリット、デメリット、校舎等建設に係る費用等を確認してきました。

令和5年7月に「愛別町小中一貫教育調査検討委員会」を設置し、令和6年1月まで、5回の委員会を開催してきました。

3月号では、「小中一貫教育調査検討委員会の協議内容」についてお知らせします。